



図書館だより



2022年
12月20日号

秋草学園高等学校 図書館

今年も残りわずかとなりました。2022年はみなさんにとってどんな年になったのでしょうか。学校生活の中では体育祭の1日開催、桔梗祭の一般公開、修学旅行など行事が再開し、コロナ禍以前の生活が少しずつ戻ってきているのを感じることができました。みなさんの生き生きとした笑顔を見る機会が増えたことを嬉しく思います。まだ油断のできない状況ではありますが、引き続き、感染予防をしっかりとしながら今、目の前にある日常を楽しんで過ごしたいですね。来年はさらによい年になりますように。

2022年これを読まなきゃ終われない！

今年もたくさんのお本が出版されました。図書館だよりで紹介した逢坂冬馬さんの『同志少女よ、敵を撃て』の他、東野圭吾さんの『マスカレード・ゲーム』、『真夜中乙女戦争』の著者Fさんの『20代で得た知見』などが2022年年間ベストセラー（日版調べ）にランクインしていましたが、みなさんの記憶に残ったのはどんな本だったのでしょうか。気になっている本をまだ読んでいないという人はぜひ冬休みに借りていってください。

290-チ『地球の歩き方 日本』

地球の歩き方編集室 || 編 学研プラス



今年、旅のガイドブック『地球の歩き方』シリーズに創刊以来初となる日本編が出版されました。シリーズ最多の1056ページに作り手のみなさんの熱意を感じます。47都道府県それぞれの魅力だけでなく、日本の文化や歴史などを改めて知ることができる楽しい1冊。

913.6-マ『その本は』

又吉 直樹 / ヨシタケ シンスケ || 著 ポプラ社

お笑い芸人で芥川賞作家でもある又吉さんと、人気絵本作家ヨシタケさんのコラボ作品。本が大好きな王様に命じられ、二人の男は「めずらしい本」の話を集める旅へ出かける。集めてきた奇想天外、笑いあり、感動ありの本の話は王様を満足させるが、実はこの二人…。

913.6-ミ-0『夢をかなえるソウ0』

水野 敬也 || 著 文響社



上司との関係に悩み、苦しい思いをしている僕の前に神様が現れた。それは象の頭を持ち、障害を取り除くインドの神様がナーシャだった。でもなぜか関西弁。そして、すごく元気。そんなナーシャとの出会いが夢のない僕に大切なことをいくつも気づかせてくれる。

寒い冬、ほっこり心を温める物語

B913.6-コ『無駄に幸せになるのをやめて、こたつでアイス食べます』

コイル || 著 KADOKAWA

仕事仲間に裏切られた莉恵子。住む家をなくし、莉恵子の家に避難してきた芽依。ひどいことが起こった時には温かなこたつに入って、おいしいものを食べて、じんわりと心をほぐし、さあ再出発！仕事に恋に生活に、明るい未来へ進んでいく姿が元気をわけてくれます。

913.6-サ『ショートケーキ』

坂木 司 || 著 文藝春秋



ショートケーキといえば、誕生日やクリスマスだけでなく、嬉しいことがあった時、元気になりたい時など、人生の様々な瞬間に登場するケーキではないでしょうか。そんなショートケーキが主人公たちの心をスッと軽くしてくれる短編集。読めばきっとあなたも食べたくなるはず。

新着コーナーの気になる本

913.6-イ『ピカソになれない私たち』

一色 さゆり || 著 幻冬舎

国立の美術大学を舞台に4人の美大生の様々な苦悩が描かれた作品。スパルタで有名なゼミの教授からの指摘に心をえぐられ、仲間の絵に嫉妬し、自分にとって絵を描くとは何なのかを見失う。それでも筆を握り、卒業制作に全身全霊をささげ、自分自身とも向き合っていく。

913.6-イ『光のどこにいてね』

一穂 ミチ || 著 文藝春秋

結珠と果遠が偶然出会ったのは7歳の時。異なる境遇で暮らす2人にはすぐ別れがやってくるが、15歳、29歳と運命が繋ぐように彼女たちは再会する。一緒に過ごした時間は短く、友だちと呼べる関係かもわからない。だけど誰より強く惹かれる2人のまっすぐな物語。

司書の今月はこの本読みました

皆さんと同じ年ごろのズラータさんを応援する気持ちで一杯です。13歳から独学で日本語を学び、将来は日本の漫画家になる夢をもつ16歳の少女が、爆撃とコロナの脅威にさらされながら、日本を目指した不安な道のり。勇気を出して話しかけた「こんにちは」が、道を開きます。ちなみにその相手は大越健介キャスターたちでした。お世話になった人たちに感謝を伝えたいと日本語で書きあげた本です。915-イ『ウクライナから来た少女 ズラータ、16歳の日記』ズラータ・イヴァシコワ || 著 世界文化社 勉強って無駄じゃないそうですよ。【鈴木】